

# やまと 民俗への招待

鹿谷 黙

6月5日明け方、奈良の町を南下して京終へ向かう。JR桜井線を越えて、南京終町の一郭、桂木団地に入ると、西の端に野神古墳の森が見える。5世紀末から6世紀初めの築造とされるが、かつては井戸が埋まっていると伝えられ、明治9（1876）年の旱魃時に掘ったところ、鏡や刀や馬具類が発見され、石棺も出てきた。しかし京終の人々は、長年ノガミサンとして信仰し、墳丘には小さな祠が東向きに建っている。

午前5時半頃から、農家組合の人や見学者が集まり、準備が始まる。12軒で農家組合を作るが、

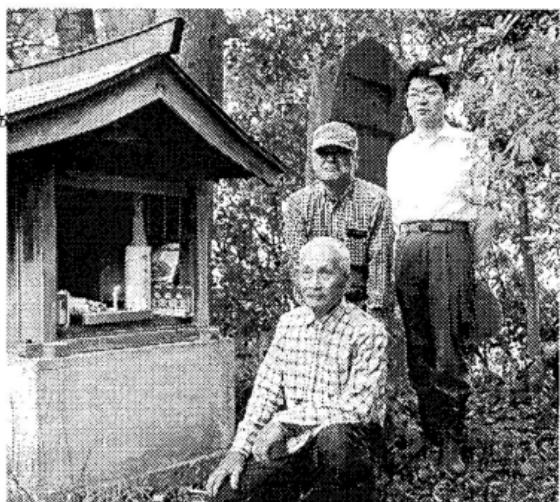
## 信仰に農耕の「記憶」

高齢化で農業ができない人も増え、集まつたのは総代の橋本徳博さんほか2名だった。御神酒や菓子、チマキを供えて順にお参りをした。終わると東方の陸運事務所があつた所へ移動。事務所移転後、広い敷地の中に、一段高い四角い土地がボツンと残り、楠の木などが生えている。野神古墳が西のノガミサンで、こちらが東のノガミサンだ。

ここにも祠があり、傍らには大きな石碑も建っている。碑文によるとこの東のノガミは、磐姫が故郷を偲んで歌を詠んだ場所とも、七福弁天塚とも称したとある。ここでも供物を供えてお参りしている。

昭和14（1939）年生まれの橋本さんによる葉を久し振りに聞いた。麦のアキ（収穫）にかかり、それから采にかかるという。麦秋という言葉を久し振りに聞いた。

22歳の頃、三軒共同で30万円ほどの耕運機を買った話やそれ以前は、奈良市田原との間で1匹の牛を貸し借りしていた。京終は平城京外京南



京終の東のノガミに参る人々

—筆者提供

端、奈良町の南限からきた地名で、近世には一部は町扱いを受けたが、村高は千石を超える奈良廻り八カ村の一つで、耕作面積は60町歩ほどもあった。明治32（1899）年に鉄道開通、大正7（1918）年には、大和高原との間に索道ができる、青物市場も開設されるなど、物流の拠点として大層賑わっていたが、その後大きく変貌した。

農耕守護のノガミの信仰は、この地の人々の古くからの拠り所であり、かつての姿を伝える土地の「記憶」である。（奈良民俗文化研究所代表）